

本会 9 月号 Newsletter での「参考資料」(No.74-sup.)で自問自答(self-questioning)について触れましたがこれとの関わりで、たとえば架空の例文 I see EP IV through your clear bag. Where did you get that book, Hanako? At Maruzen's, right? 「あなたのビニールバッグに EP 本 IV が入っているのが見えるけど、花子、あなたそれどこで手に入れたの？丸善でしょ？」などと自問自答した場合、3 文とも位置格(locative case)が関与する文で言ったことになります。第 2 文には the book の移動(transposition)である 'from a bookstore, etc., to Hanako' があります。この the book が経路(Path)を経て(through / past)、それから 'into Hanako's bag' へと移動します。

こういう事物(物・事)の移動という事象(motion event)とその変化(motion change)に意識的に特別な注目をすると私自身の実感体験からも、英語での重要なポイントの見定めが see through the points できるように思えます。五感(five senses)の視覚(sense of seeing)から第六感(6th sense)の運動覚(sense of motion)へとということになります。Newsletter 9 月号で扱った EP 本に示される hat(帽子)の移動・位置変化(transposition)での time(時間)・tense(時制)・aspect(アスペクト)とも絡む問題です。運動覚に関しては今後の稿 No.77 で扱うことは先月、事務局にお伝えしました。

このあたりは C. J. Fillmore の money(貨幣)が物理的にも非物理的にも移動するとともに物品が移動する商取引(モノの売買)に特別に注目した Case Grammar(格文法)とも関わります〔連載稿 N.53 で扱っておきました〕。商取引は Trump 大統領の得意技で氏はまさにビジネスマン(He is a businessman through and through.)という感じですが、本連載での 1 つのテーマでもある商取引は EP 本では III で提示されるものでもあります。またさらには、かつて私が注目し今日まで大いに影響を受けている L. Talmy の優れた論文 "Semantics and Syntax of Motion" (1975) などでの論考とも結びついてきます。私はどの稿も全体を縮約 Basic でならどういふかを自問自答しつつ合わせて考えてもいますが、L. Talmy に関しては本連載では No.70 で触れました。

本連載(No.68)で触れておきましたが、古代ギリシャのソクラテスは人間は実は何も知らないのだということを知るべきだという「無知の知(Socratic paradox)」・「不知の自覚(awareness of ignorance)」として「汝自身を知れ」という自己認識(self-awareness)の理論を展開しました。ソクラテスに関しては EP 本なら III, p.221 で触れられます。彼の問答法(Socratic questioning)はよく知られていますが、これは疑問詞 'what' に象徴もされるでしょう。また、100 年を経た Ogden-Richards の古典 *The Meaning of Meaning* (1923)〔10th edition(1952), p.151〕では True を True^S (Symbolically True) と True^E (Emotionally True)に 2 分します。

本会では語訳のデモのあとに、背景にある「関連事項」として別途付け加えてのものがどんどん印刷資料などとしても提示されるとよいでしょう。研究意識と視野の広がりも何かと次々と変わってくるはずと思っています。Graded(段階式)だと銘打つ限り EP 本の各事項前後の在り方をその都度示す必要もあるわけですが、こういう semantic sequency (SS)の問題は一筋縄でなく大変難しいです (Richards にその在り方を直接聞いたなら返答はなされたでしょうが、やはり難しい問題のはずです)。

* * *

本会での年度の区切れ目となりました。目下の連載稿、紙原稿なら一覧ぐらいはされても Web 上での処理ですの、会員に伝わっているのだろうか？とよく思いはします。何年も前と何かと同じように目先の事項だけに心が向けられているようにも思えます。本会の長い歴史の中で基本的な点で見落とされている事項も多々あります。私の意図している趣旨が本会の目的としているものとどう関わるか？じっくり読んでもらうことなく直接関わりがないなどと思われているとすると、それは大きな誤りででしょう。直接的にせよ間接的にせよ、関わりのない内容を扱ってはいは「豆腐に釘？」の無駄なことになりますが、関わりが必ずあるはずと思っています。

このたびの自民党・高市早苗新総裁の“働いて、働いて、働いて！”(Work, work, and work!)は言葉として大変良いです(中身を see through することは難しいですが)。本会でも互いに協力しあいながら、C. K. Ogden が提唱し後に I. A. Richards & C. Gibson が *Techniques in Language Control* (1974)で Every Man's English (世界英語・全人類英語: EME) とも称したその研究(work)へ向けての意識がさらに高まるとよいでしょう。

目下の連載稿は事務局のほうで実際に読まれ引用箇所が提示されていますし、私自身は文中で過去の稿をいくつも「No.~参照」としています。また下線、語の太字体・イタリック体での区別もしていますので、確認のための検索・追跡・ポイントの見定めは誰でも容易かと思っています。

連載拙稿での今回の No.75 では末尾の「演習」で設問を 11 例提示しました。1 つずつじっくり考えてみてください。今後も何かとポイント(特に本会で必須の背景にあるポイント)を示していくことになります。

That is quite true. While writing my papers — which are now coming one after the other — for the society's newsletters, I sometimes get a feeling as if I were only making attempts at hammering nails into a cake of 'tofu' (laugh). Work, work, and work! Yes, we will have to be more conscious of the value of working hard on 'Every Man's English (EME)' in harmony with one another.

I have no idea what number of persons in the society are making attempts at reading my writings when they come out on the Net. If the writings were to be in paper form (in the Newsletters), then they would naturally have a look over them. They may be taking it that what I am saying has little to do with what they are now doing themselves with the help of EP books. In other words, they may have their fixed ideas without going into details of the points in my writings or they may even be unconscious of what they are up to themselves.

One thing is for certain, however. It is that as the office manager of the society you do the reading of my writing yourself every time, give a short account of it and let them have some ideas about it. And that will certainly have a good effect on them in the society. I would say that there is no doubt about it. So, please keep on doing it. Let me say this again, Work, work, and work! I am not driving nails into a cake of 'tofu'. I am attempting to put them into hard bits of wood.

If you have time, I make the suggestion that you get through all of my past writings in the newsletters again (from No.1 through No.75), so that you will see through my ideas not only about the English language but about language science in general. Underlines, black prints, and sloping prints will be a help for a quick reading of my writings.

p.s.

There are 11 questions as you see on the third and fourth pages of the writing this time (No.75). Please give your answers to all of them one by one.

本会年度開始(秋)のこの機会に、事務局宛て参考資料とします。ではまた。Take good care of yourselves.

後藤

(2025.10. 12)